

江藤新平 （いとう しんぺい） 舊佐賀藩士、政治家。天保五年（二月九日肥前國佐賀郡八戸村生れ、明治七年四月十二日歿（一八三〇—七五））。講胤雄、幼名常（恒）太郎、又藏。號南白。藩費弘道館に學ぶ。嘉永二年國學者枝吉經種（副島種彦の實兄）の義祭同盟に加はり攘夷論を唱へると、のち開國論に轉じた。文久二年脱藩して上洛、姉小路公知に密奏して歸藩後謹慎處分とせらる。慶應二年赦され、翌年江戸軍監、江戸鎮臺判事、明治二年佐賀藩權大參事となり藩制改革に當る。四年文部大輔、左院副議長として民法典編纂に従事。翌年司法卿、六年參議となるも征韓論に敗れて下野。翌年佐賀で舉兵したが政府軍に敗れて處刑せられた。辭世へますらまの涙を袖にしぼりつゝ迷ふ心はたゞ君がたのみ。

『南白遺稿』（江藤熊太郎纂輯・久米邦武批評、明治二十五年八月二日博文館）刊。

